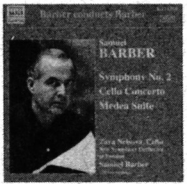
■谷口昭弘（音楽学・音楽評論）

Barber, Samuel



推

バーバー自作自演集
〔①交響曲第2番（1947年改訂版）②チェロ協奏曲③バレエ組曲《メデア》Op.23〕

サミュエル・バーバー指揮ロンドン新so.，②ザラ・ネルソヴァ(vc)
〈録音：1950年12月〉
[NaxosM8.559630]

バーバーはカーティス音楽院でフリッツ・ライナーに指揮を習ったことがある。残念ながら「見込みなし」とされたものの英デッカから自作3つを指揮して録音する話が舞い込んだ。彼はウィリアム・ストリックランドやデンマークのニコライ・マルコに指揮を習い直し、録音用オーケストラと2日のリハーサルの後、3日間の録音を行なった。第2交響曲にはデジタル録音も3種類あり、このFFRR時代の、潜ってしまうバートもある録音には不満が出るかもしれない。しかし緩やかな迫力を持った自演の魅力は充分に伝わってくるし、ネルソヴァの独奏は作曲者の抒情性と現代性、両面を伝えている。筆者所有の米ロンドンLL・1328（英プレスLP）はサーフェス・ノイズがあるものの芯が強く、音楽にしっかりと没頭できる。復刻CDには2001年のパール盤があったが、音が遠くノイズも多い。今回のナクソス盤は、ぐっと聴きやすくなり、エコー処理もない。